

5.62

# 営繕のあゆみ'87





建築課長

渡嘉敷 勇

公共建築物は地域社会の共有財産であり地域における環境形成にも大きな役割を果たすことは御承知のとおりであります。

又今日の多様化する社会のニーズに対応するような建物でなければならぬと考えます。このような中で昭和62年度は待望の沖縄コンベンションセンターの大展示棟、会議棟をはじめ、わが国唯一の自由貿易施設等の完成をみました。本書はこれらの建築物を紹介するとともに、住宅課、教育庁、病院管理局、さらに都市計画課の公園も掲載してあります。

最後に本書の発刊にあたり御協力いただきました関係者に対し厚くお礼を申し上げます。

平成元年3月

## 目次

1. 沖縄自由貿易地域	2
2. 管轄関係(建築課)	7
総務部	7
生活福祉部	8
商工労働部	9
環境保健部	11
農林水産部	13
土木建築部	17
3. 住宅関係(住宅課)	19
4. 教育関係(教育庁施設課)	22
5. 病院関係(病院管理局)	23
6. 参考資料	24
過去5年の工事費及び工事件数推移	24
工事概要一覧(分任)	25
編集後記	29

## 1. 沖縄自由貿易地域

### 1. 設置の経緯

青い空、青い海。この沖縄にもう一つの新しい顔、自由貿易地域が誕生した。復帰以来の念願であった自由貿易地域施設整備工事が昭和62年11月に着工し翌年4月に竣工した。

本土復帰の時、琉球列島米国民政府令で設置されていた旧自由貿易地域は廃止され、それに代わるべく新自由貿易地域が、沖縄振興開発特別措置法第4章に規定された。沖縄県は、この新たな制度のもとでの自由貿易地域の設置に関して、調査研究を積み重ね、また今日、世界的な貿易自由化の潮流とも相まって、このほど那覇市鏡水崎原地先約3ヘクタールを、自由貿易地域那覇地区として沖縄開発長官より指定を受けた。

自由貿易地域は、那覇空港に隣接し、また那覇港埠頭にも近く、物流拠点としては最適の場所に立地しており、また背後には100万人の消費市場を控え、中継備蓄、加工製造、品質調整、展示販売(商取引)といった機能を最大限発揮できる位置にあり、沖縄県経済の発展に大きなインパクトになりうるであろうと期待されている。





▲ 海岸沿いの横一文字型の建物が1号棟、手前側のL型の建物が2号棟

## 2. 設計の理念

自由貿易地域の施設設計に当たっては、その国際経済交流の一つの拠点性を考え、また本県の亜熱帯の特性を象徴的に捉え、本県のゲートウェイとしての空と海からの玄関口に位置することなどをモチーフとして、これらの機能、造形、景観に配慮した建築デザインを目標とした。

機能面では、大型トレーラーが出入するコンテナヤードとプラットフォームの外核と倉庫、保冷、加工の内核ゾーンからなっており、さらに管理機能を含む国際的なニューメディアサービスや展示フェアが可能なインテリジェンス性も考慮した設計となっている。

ゲートウェイに位置する建物としてそのシンボル性を示すゲートゾーンをはじめ、ランドマークとなるようにツートンカラーの明るく爽やかな色彩と、エメラルドの海を背景としたゼブラ模様を取り入れると共に、空からの視線にも目立ち、新しい時代の躍動を象徴するような波動型の屋根をあしらった設計となっている。

## 3. 施設計画

当施設は、主に企業入居者のみを対象とした1号棟、企業入居者用施設と管理・情報部内を合せもつ2号棟から成り、中央部西側に貨物の一時保管場所として野積場が設置されている。

1号棟は北側海岸に沿う形で配置することによって、貨物車の発着場を長くとることが可能になり(約126m)、又冬の北風に対しても建物が防風壁となつて、域内への強風でゲートが設置されており、これは機能的には2階の管理部門ゾーンへつなげる役目をもつが、域内と域外の分節・境界を象徴化する意味あいも込められている。

施設配置に関しては、倉庫、工場等に代表されるハードな要素に対応する施設は1階に配置し、事務所、展示場、情報サービス室に代表されるソフトな要素に対応する施設は2階に配置することを基本方針に設定して計画されている。

2階展示場は、域内企業の製品の展示スペースとして設定され、展示販売、商談に利用される。また、集会や式典にも利用できる多目的ホールでもある。

国際通信サービス室は、貿易情報の集積、発進基地として位置づけられており、外国商品のテレビショッヅ、外国取引先との国際テレビ会議等、情報の国際化に対応できる施設として整備検討中である。



▲ 北東側からの景観・東シナ海に面している

名称 沖繩自由貿易地域

所在地 那覇市錦水崎原地区 国道332号線(空港道路)沿い

工期 昭和32年11月9日～昭和63年4月30日

構造 1号棟=鉄筋コンクリート造平家建

2号棟=鉄筋コンクリート造一部S造2階建

延面積 9,800㎡

設計 基本設計=㈱ブランド研究所、㈱芝岩エンジニアリングJV 実施設計=ブランド研究、都市設計、親川設計JV、芝岩エンジニアリング

総工事費 1,935,103千円

施工/建築=金正建設㈱、㈱前田建設JV、㈱金城キウ開発

㈱善太郎組JV、㈱東恩納組、㈱桃原建設JV

㈱大米建設、日敬建設㈱JV、㈱野原建設

電気=㈱沖繩特電、㈱新琉電工、マエダ電気工事㈱

㈱ゼネラル電設JV、㈱諸見電気工事、㈱長嶺

電気、㈱三光電気工事JV、大倉電気工業

空調=㈱和空調設備㈱

衛生=大宮設備㈱、㈱クリエイトJV

その他=新垣土建(土木、外構)、㈱糸満農園(植栽)



▲ 展示ホール



▲ 世界時計



▲ ゲート棟 2階内部



▲ 2階広場



▲ テナント内部

## 2. 営繕関係(建築課)



名称 沖縄県立芸術大学美術棟

所在地 那覇市首里当感町2丁目2番地

工期 昭和62年7月20日～昭和63年2月29日

構造 鉄筋コンクリート造

延面積 3,417㎡

設計/基本設計=石本建築設計事務所

二基建築設計室、近代設計JV

実施設計=沖縄県建築設計監理同組合

総工事費 623,400千円

施工/建築=㈱国吉組、㈱南海建設JV

電気=瓦念電気工事㈱、神田電機工事㈱JV

空調=㈱琉球冷機

衛生=沖縄水質改良



当施設は、沖縄県立芸術大学の美術・工芸等の実技校舎で、第2キャンパスに位置する。

設計は、基本設計に示された、「雨はじく」句配屋根、「花ブロック」といったモチーフを基に、前回工事の管理棟・一般教育棟(昭和60年度)のディテールを発展させる形態を旨とした。さらに、動線等の計画に際しては、大学側の施設検討委員会(教職員で構成)との協力を重ね、基本設計を変更せざるを得なかった。このほか、児童島の赤瓦、レンガタイル、花ブロック、琉球ガラスを多く用いる計画とした。また、地下に当たる部分は将来、図書芸術資料館が建設される際の資料保存庫が予定されている。





## 商工労働部



名称：沖縄コンベンションセンター大展示棟

所在地：宜野湾市真志喜

工期：昭和60年3月18日～昭和62年8月15日

構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造

延面積：7,464㎡

設計：(株)大谷研究室・(株)国建JV(積算=土木  
建築部建築課)

総工事費：3,166,189千円

施工/建築：竹中工務店、なか工務店、

国塚組、前田建設JV

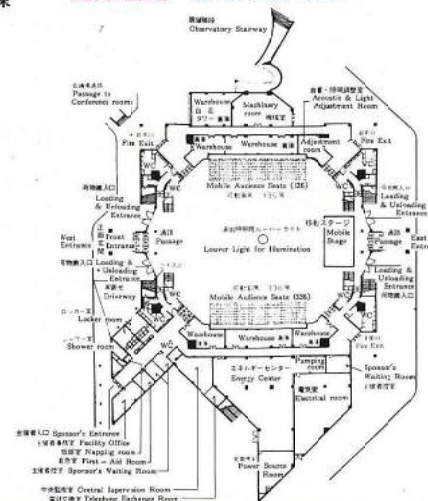
電気：沖縄水工事株、琉球電工業社

守江電気建設工事JV

空調：東洋設備、南西空調設備JV

衛生：協件設備、大友設備JV

大展示場1階平面図 Floor Plan, 1st Floor, Event Hall



## 生活福祉部

名称：名護厚生園機能回復訓練室

所在地：名護市

工期：昭和63年1月26日～昭和63年3月25日

構造：鉄筋コンクリート造

延面積：98.55㎡

設計：知念建築設計事務所

総工事費：7,700千円

施工/建築：林徳建設

電気： //



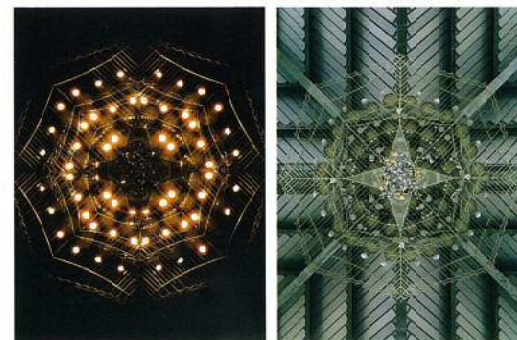
当施設は、名護市街地が見渡せる高台にあり、洗濯物干場として利用していた既設建物を改修し、機能回復訓練室として利用している。

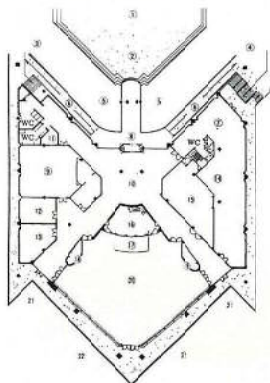
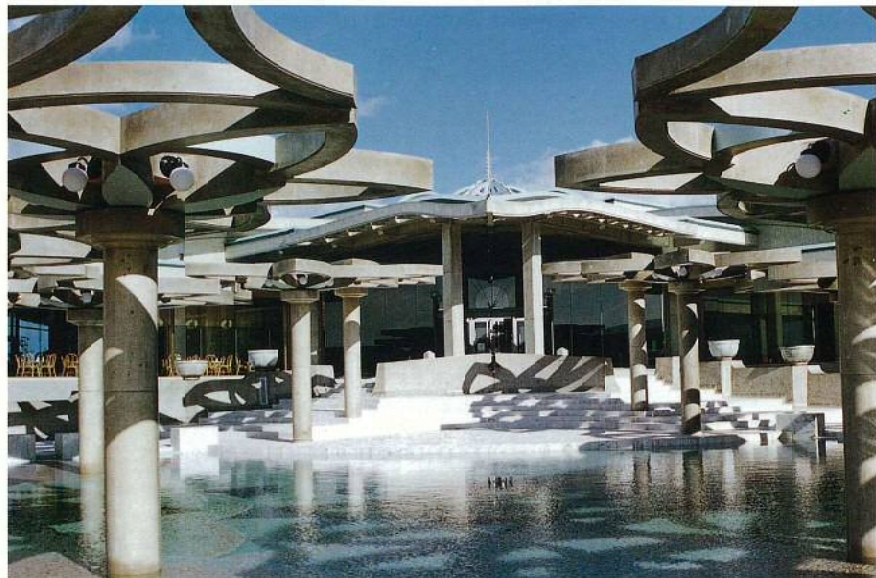
## 沖縄コンベンションセンター

建設用地は、沖縄本島中部の宜野湾市地先の埋立て地内の55,553㎡で、隣接してヨットハーバー・運動公園等があり、コンベンションゾーンが形成されている。当センターは、大展示棟、会議棟、劇場棟(建設中)からなる複合施設である。

## 大展示棟

大展示棟は、最大5,000人収容可能なアリーナ、最新の音響設備を備え、各種の催し物に対応できる施設である。当施設は、壁面をガラスで構成し、明るく開放的な雰囲気をかもし出し、東西にのびた大庇は、強い日射をさえぎり日陰を作り人々の憩いの場となっている。





会議棟1階平面図  
Floor Plan, 1st Floor, Conference Rooms

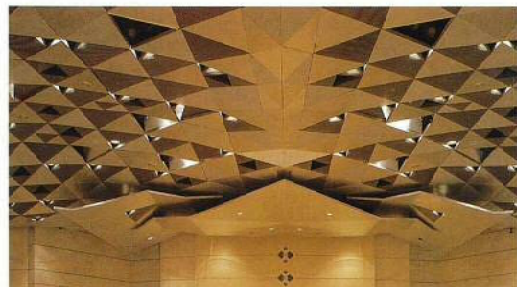
- ① 大規模会議室 (100-120名)  
Large Conference Room (100-120 persons)
- ② 中規模会議室 (50-80名)  
Medium-sized Conference Room (50-80 persons)
- ③ 小規模会議室 (20-40名)  
Small-sized Conference Room (20-40 persons)
- ④ 大規模会議室の廊下  
Break Hall
- ⑤ レストラン  
Restaurant
- ⑥ レストランの厨房  
Restaurant Kitchen
- ⑦ エレベーター  
Elevator
- ⑧ 階段  
Staircase
- ⑨ 受付室  
Reception room
- ⑩ 待合室  
Waiting room
- ⑪ 会議室  
Meeting room
- ⑫ 会議室の廊下  
Meeting room interconnector's Room
- ⑬ 調整室  
Adjustment room
- ⑭ 大規模会議室の廊下  
Conversion hall
- ⑮ 入口  
Entrance
- ⑯ 庭園  
Garden

### 会議棟

当施設は、大・中・小規模の異なった会議室を有し、本格的な国際会議に対応できる最新設備を備えている。また、大きなガラス壁面により、大展示室同様、明るい開放的な空間となっている。



名称：沖縄コンベンションセンター会議棟  
所在地：宜野湾市真志喜  
工期：昭和60年3月13日～昭和62年8月15日  
構造：鉄筋コンクリート造  
延面積：2,366㎡  
設計：榎大谷研究室・株国建JV  
総工事費：973,960千円  
施工：建築：金正建設株式会社・丸満工務店JV  
電気：マエダ電気工事株式会社  
空調：尚不二宮工業株式会社  
衛生：御明電気水道



▲ 会議室天井

## 環境保健部



名称：南部保健所  
所在地：南風原町宮平690  
工期：昭和62年6月20日～昭和63年3月4日  
構造：鉄筋コンクリート造(2階建)  
延面積：1,820㎡  
設計：(有)二基建築設計室・株渡久山建築事務所JV  
総工事費：491,050千円  
施工：建築：樹金城キック開発・第一設備JV  
電気：沖縄電気工事株式会社・尚新共電気工業JV  
空調：御宮城製作所  
衛生：御田端設備工業  
その他：外構＝樹金城キック開発・第一設備JV

当保健所は、久茂地再開発計画に伴い南風原の精和病院跡地(3分割した部分)に移転新築した。

設計では、管理関係諸室と保健所関係諸室を明確に分けつつ相互の関連性を考慮した上でアプローチが配置され、中庭を中心軸としてその廻りに付合スペース、エントランスホールを配している。また、重熱帯の強烈な光をさえぎるために影の深い庇を設けている。

